

## 「五所川原市立地適正化計画〔基本的な考え方・案〕」についての意見募集結果について

市が実施しました「五所川原市立地適正化計画〔基本的な考え方・案〕」にあたっての意見募集に対し、多数のご意見をいただき、誠に、ありがとうございました。

いただいた意見の概要とそれに対する市の考え方は下記のとおりです。

### 記

#### 1 意見募集期間

平成30年2月23日から平成30年3月23日まで

#### 2 募集方法

市のホームページ (<http://www.goshogawara.net.pref.aomori.jp/>) に案の概要等を掲載したほか、市都市計画課、市情報公開コーナーに備え付けました。また、希望者には郵送を行いました。

意見提出は、郵送、電子メール、FAXのいずれかの方法によることとし、提出言語は日本語としました。

意見提出にあたっては、提出者の氏名・住所（法人等の場合は、その名称・事務所所在地等の連絡先）の明記を条件としました。

#### 3 提出された意見

1名（個人）の方から延べ7件の意見をいただきました。その反映状況は次のとおりです。

文章修正等	記述済み	実施段階検討	反映困難	その他	合計
0件	0件	3件	0件	4件	0件

「文章修正等」・・・本文の修正、記述の追加等意見を反映させるもの。

「記述済み」・・・既に記述済みのもの。

「実施段階検討」・・・計画の実施段階で検討又は対応すべきもの。

「反映困難」・・・反映が困難なもの。

「その他」・・・質問や感想。施策の体系外への意見。

意見の内容とそれに対する市の考え方及び意見を考慮した結果決定した案は、次のとおりです。なお、類似の意見が複数あった場合は、まとめて1件として、公表を行い、市の考え方を回答していることをお断りします。

また、賛成及び反対とのみ記載された意見がともに0件であり、公表した案自体が市の考え方を示していますので、改めて賛否についての市の考え方は公表しません。

(提出された意見の内容とそれに対する市の考え方)

No	提出された意見	市の考え方
1	基本認識として、人口減少・高齢化は構造的であり施策で解消できないと考える。	【その他】 立地適正化計画は、人口減少・高齢化が進展する中にあっても住み続けられる都市環境の形成を目指すことを目的としています。

2	<p>計画（案）の基本人口は定住人口（国勢調査）であり、これからの都市の活性化及び発展を考えた時、昼間人口・交流人口・関係人口を十分考慮すべきである。</p> <p>人口減少に伴う地域経済及び消費低下を補い得るには、域外からの観光・交流人口の活用が不可欠だと思う。</p>	<p><b>【実施段階検討】</b></p> <p>人口減少が続く中、市の活性化及び発展に向けては、観光による交流人口等の増加は非常に重要であると認識しており、庁内関係部署はもとより官民連携して、有効な施策を検討してまいります。</p>
3	<p>市の基幹産業の一つが農業であることを否定しないが、実体地域経済は公共投資、年金、医療等いわゆる財政支出が地域を支えているのではと思う。第3次産業の中味の分析評価が必要。</p>	<p><b>【その他】</b></p> <p>農業は、紛れもなく当市の基幹産業の一つであり、地域経済に大きく影響を及ぼすものと認識しています。そのため、本計画では重要な要素として位置付け、今後のまちづくりの方向性の検討材料として取り扱っています。</p> <p>また、第3次産業に関しては、施設立地などを中心に分析し、まちづくりの課題などに反映しています。</p>
4	<p>小売業の状況で平成18年度商圈調査報告書のデータは古過ぎるではないか。スーパー、ネット販売、コンビニ等商品購入、流通の変化は早く、著しい。</p>	<p><b>【その他】</b></p> <p>本商圈調査データは、当市が把握している関係データの中で最新のものであり、それを活用して分析を行っています。</p> <p>また、調査年度時には、既に『イオンモールつがる柏』や『エルムの街ショッピングセンター』などの大規模集客施設が立地している状況のため、マクロ的な消費購買動向は捉えられていると理解しています。</p>
5	<p>当市市街地は、人口減少、低密度、渋滞発生のない地方小都市の市街地であり、生活サービス享受のため自家用車の利用需要は減らないと思う。</p> <p>反面、今後高齢者等の自家用車に依存できない人たちが増えるので、移動手段の確保が重要となり、従来の公共バスのみならず公共交通機能に特化した民間活用の乗合タクシー、地域運営バスなど新たな移動手段や仕組みを考える必要がある。</p>	<p><b>【実施検討段階】</b></p> <p>市では、人口減少及び高齢化が進む中であっても、将来にわたる持続性と利便性を確保できる公共交通体系の構築を目指すために地域公共交通網形成計画の策定及び地域公共交通再編実施計画の作成に着手しており、その中で乗合タクシーなども含めた多様な移動手段の確保や仕組みの検討を進めています。</p>
6	<p>まちづくりの方針で五所川原駅を中心とする都市拠点とエルムの街周辺の二つの拠点は理解できる。</p> <p>五所川原らしさ、顔、玄関として、さ</p>	<p><b>【実施検討段階】</b></p> <p>前述のとおり、人口減少が続く中、市の活性化及び発展に向けて観光等による交流人口の増加は非常に重要であるため、庁内関係部署はもとより官民が</p>

	<p>らにインバウンド・域外の受入窓口・交流機能は駅前が相応しい。駅前を単なる交通結節機能だけでなく、観光交流を付加した内容にすべきと思う。</p>	<p>連携して有効な施策や交流機能の強化を検討してまいります。</p>
7	<p>エルム街周辺は更なる娯楽・商業消費機能の充実を図るべきと考える。</p>	<p><b>【その他】</b></p> <p>立地適正化計画の基本的な考え方として、エルム街ショッピングセンター周辺を「交流拠点」として位置づけ、多様でレベルの高い機能の集積を図ることとしております。</p> <p>なお、同ショッピングセンター周辺は、都市計画で、良好な住居環境を保護する地域や積極的に土地利用を推進していくべきでない地域に囲まれており、現状より機能空間を拡大させていくことは想定しておりません。</p>

<p>担当 電子メール 電話 FAX</p>	<p>五所川原市建設部都市計画課 tosikei@city.goshogawara.lg.jp 0173-35-2111 (内線2632) 0173-35-3617</p>
------------------------------------	--